

令和7年度

北井上小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎・基本の定着のために、「読む・話す・書く」活動を充実させる。
- ②校内外問わず、意欲的に学習に取り組むようになるための活動を計画・実践する。

校長

豊田 佳男

学力向上推進員

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な学習に意欲的に取り組み、その力を身に付けている。 ●語彙力に課題がある。問題の内容を正しく読み取ったり、文にまとめるために必要な語彙を選んだりすることができていない。	・語彙を増やし、正確に文章を読み取ることができる。また、適切な語彙を選んだ、文章に書くことができる。	・朝の活動で、漢字や計算の反復演習や群読などを計画的に実施し、基礎的内容の定着を図る。 ・授業で読む・書く・話す時間を十分に取る。 ・文章の型を提示し、手本をなぞることで書くことに慣れるようにする。 ・国語辞典を活用し、言葉の意味や使い方を調べたり、文の中で活用したりできるようにする。	・毎週水曜日に配布される「子ども新聞」を、朝の活動で使用し、言葉さがしや記事の要約、感想文を書くなどさまざまな活動を行う。	・朝の活動の15分間を反復演習や群読などにあてたため、基礎的内容が身に付いた。 ・授業では特に書いたり話したりする時間をとり、習得した語彙や表現を適切に活用する機会を増やすことができた。 ・学年によって、国語辞典の使用頻度(語彙を習得する機会)に差が見られた。	・国語辞典の活用場面を意図的に設定する。 ・語彙を習得するための手段を増やしていく。辞典や新聞だけでなく、図書室の本、ICT端末など、さまざまな方法で語彙を習得し、活用することができるようにする。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○積極的に発表したり、友達の発表をしっかりと聞いたりすることができる。 ●自分の考えを筋道立てて説明したり、文に書いたりすることが苦手だと感じる児童が多い。	・根拠や理由を明らかにしたり、筋道を立てたりして、「相手にとって分かりやすく表現する力」を身に付ける。	・楽しんで書く学習を取り入れたり、目的や相手意識をもって文章を書く活動を設定したりする。また、友達と積極的に共有する。 ・書く機会を増やしたり、自分の考えを根拠や理由を明らかにしながら伝えたりする学習活動を意図的に設定する。 ・タブレット等のICTやホワイトボード、付箋などを効果的に活用し、「図示する」「操作しながら説明する」「意見を分類する」等表現の幅を広げる。	・根拠や理由を説明する際、表現方法をいくつか用意しておき、状況によって使い分ける。(ノートに書く、班活動で友達と話す、全体の場で発表するなど)	・異学年交流を増やしたことで、相手の発達段階に合わせた言葉づかいや内容を考えることができた。 ・研修で学習支援アプリ「ロイロノート」の使用方法を共有したことで、全学年でICTを活用し、表現方法の幅を広げることができた。 ・一方、年度末のアンケートでは、表現力や説明力に自信を持っていると回答した児童は73%だった。自身が伝えていることが本当に分かっているか、不安に思う児童への適切な対応を考えていく。	・教師が表現したことを褒める声かけを増やす。 ・交流後に、互いの表現内容のよかったところや改善点をフィードバックすることで、児童同士でも表現力を高めていくことができるようにする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学校や家庭で、与えられた課題に対してまじめに取り組もうとする児童が多い。 ●与えられた課題以外の自主学習に取り組む児童が少ない。 ●すべての学力の基礎として読書活動を進めているが、昨年度「読書が好き」と答えた児童は6割だった。	・決められた課題だけでなく、進んで課題を見つけ、挑戦し、学びの楽しさを実感することができる。	・朝の活動で週1回読書タイムをとる。また、感想を伝え合う活動を設定する。 ・1万冊読書運動、マイブックリストの活動を活用して、学校における読書活動を推進し、質の高い読書活動と家庭での読書活動の啓発を行う。 ・「家庭学習の手引き」をもとに保護者の家庭学習への意識を高め、協力体制の強化を図る。 ・児童の自主勉強ノートを積極的に紹介し、模範例を示す。	・漢字練習帳や自主勉強ノートで復習して、学んだことをおぼえていく。	・児童の読書数が1年間で計1万冊を超えたり、家庭でする課題の提出率が93%以上であったりし、定められた目標に到達することができた。 ・年度末のアンケートで、「読書が好きかどうか」と「決められた課題以外の学習に取り組んでいるか」という項目での肯定的な回答が、児童・保護者ともに7割以下だった。児童が自発的に読書や自主学習に取り組みたいと思うきっかけづくりが必要である。	・担任教師や図書委員会を中心として、おすすめの本を児童に紹介する機会を増やす。 ・引き続き、「家庭学習の手引き」を活用して、保護者に家庭での自主学習の推進を呼びかけていく。